

### 3. 流域の社会状況

#### 3-1 人口

流域は、オホーツク地方の中核都市である網走市の一部を擁し、津別町、美幌町、女満別町からなる。流域関係市町村の総人口は平成12年で80,166人で昭和28年からの推移は表 3-1のとおりであり、約9%の減少となっている。しかし、市町村別の推移では中心である網走市および美幌町の人口は昭和28年に対し平成12年は約105%から約110%となっており、中核都市としての性格をもっている一方、女満別町の人口の流出は大きく、昭和28年に対し平成12年は約45%から約57%となっている。

表 3-1 流域内人口

区分	網走市	女満別町	美幌町	津別町	1市3町合計	流域内
面積 (km <sup>2</sup> )	470.92	159.24	438.36	716.60	1,785.12	1,380.00
総人口 (人)	43,395	6,077	23,905	6,789	80,166	53,463
世帯数 (世帯)	18,012	2,093	8,760	2,615	31,480	19,664
人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	92.2	38.2	54.5	9.5	44.9	38.5

流域内の集計は河川現況調査(平成12年)による  
各町の集計は北海道市町村勢要覧(H17)による。人口はH12国勢調査人口を採用

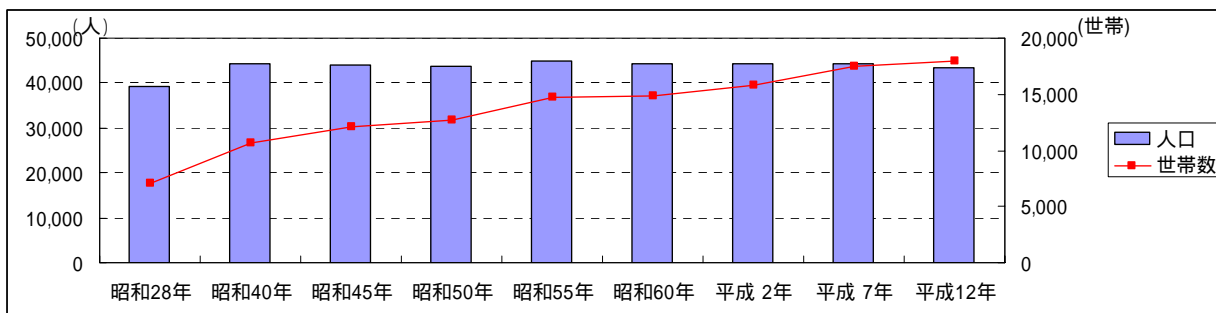


図 3-1 網走市の人口・世帯数の推移

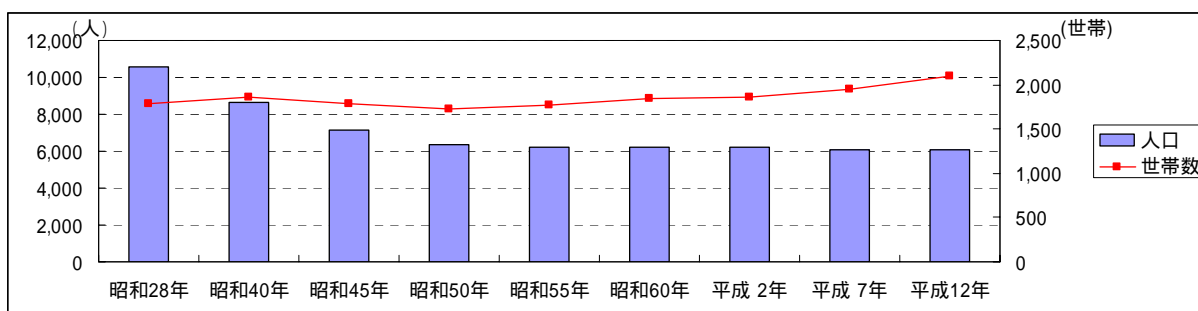


図 3-2 女満別町の人口・世帯数の推移

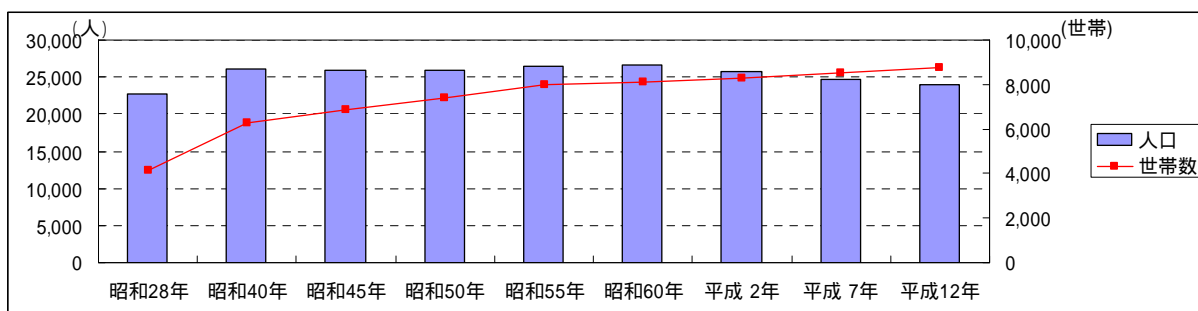


図 3-3 美幌町の人口・世帯数の推移

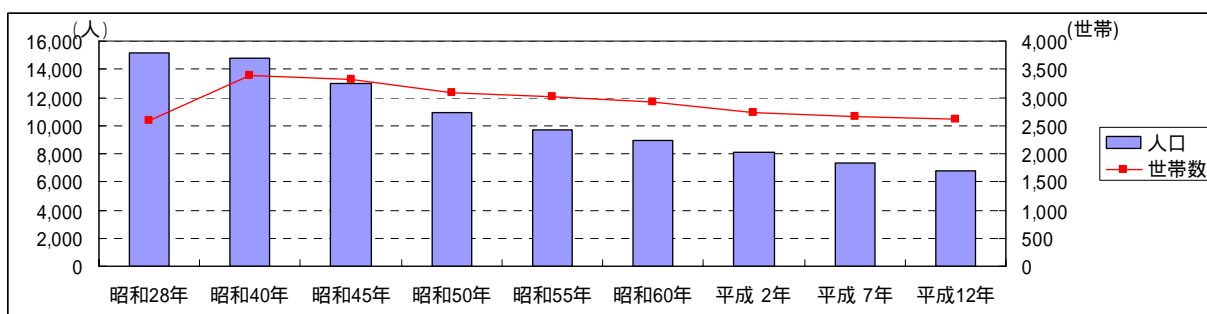


図 3-4 津別町の人口・世帯数の推移

(出展：国勢調査)

### 3-2 土地利用

流域自治体の土地利用状況は、以下のとおりであり、総面積1784.95km<sup>2</sup>のうち山林の占める割合が約61%で最も多く、続いて農用地の約21%となっている。

山林は上流の津別町で総面積の約87%に対し、中流の美幌町は約62%、中流～下流域の女満別町、網走市では約24%と約34%となっている。

農用地のうち、水田は各市町村ともに保有しているが、その比率は小さく大半が畑作地、草地である。また、宅地の比率は各市町村で差はあまりない。

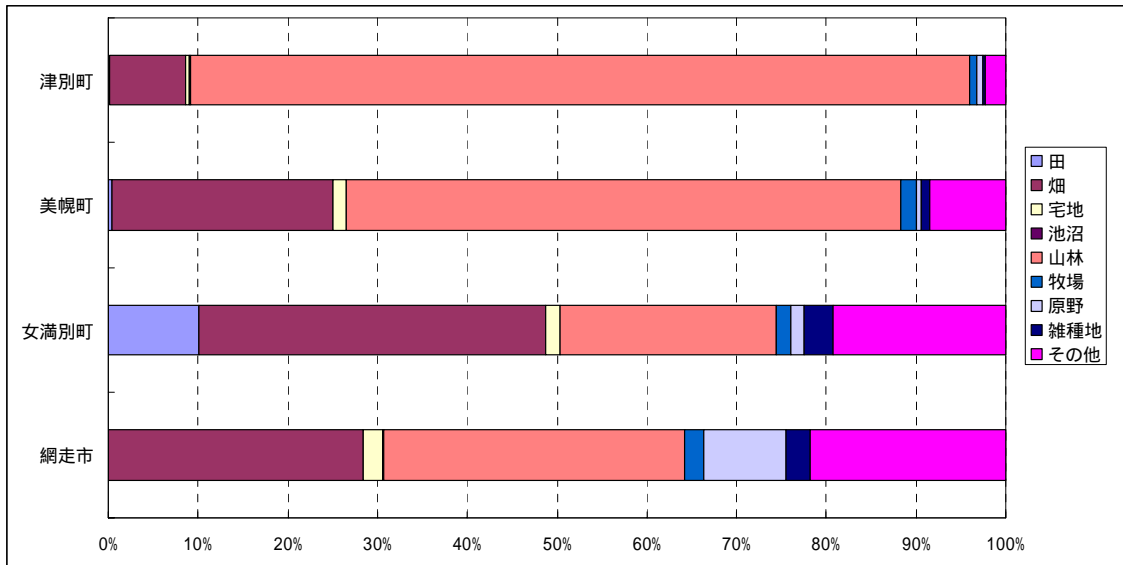
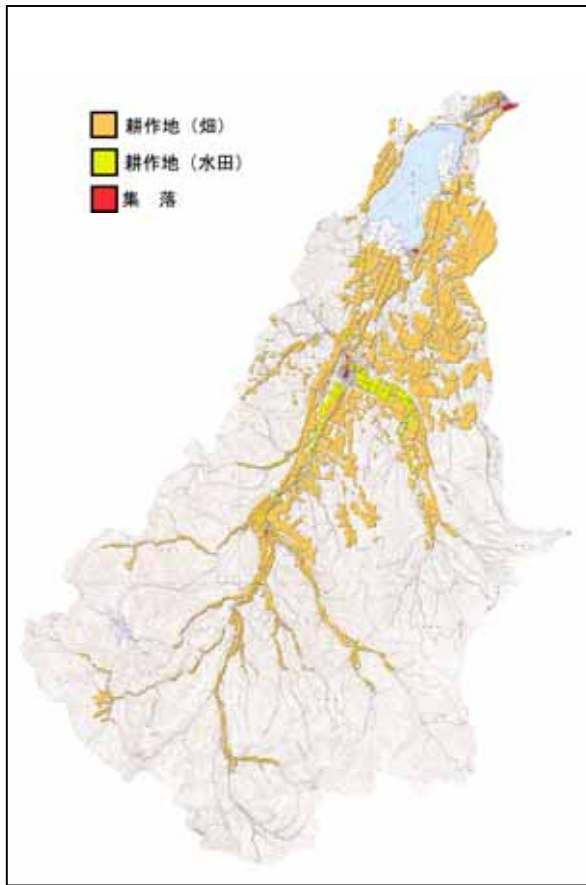
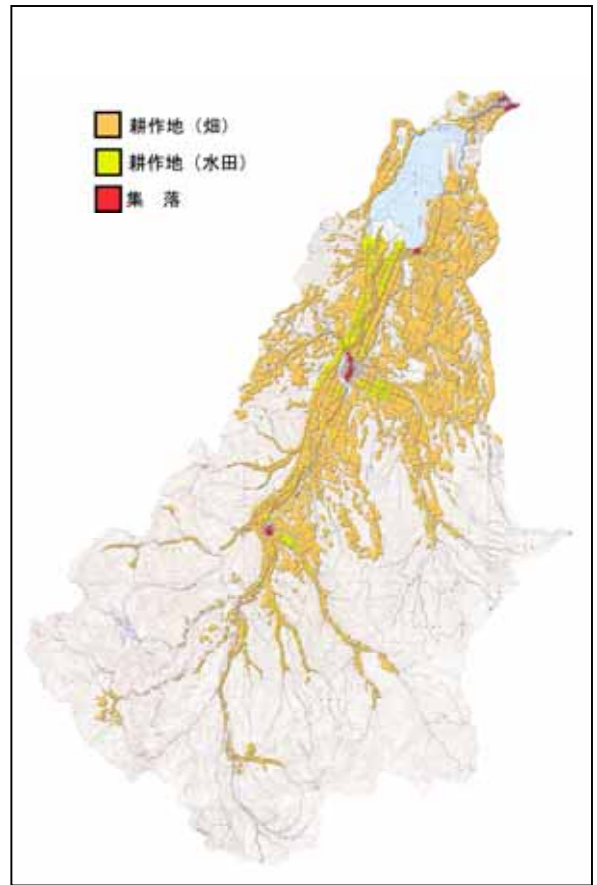


図 3-5 流域自治体の土地利用状況(H15年時点)

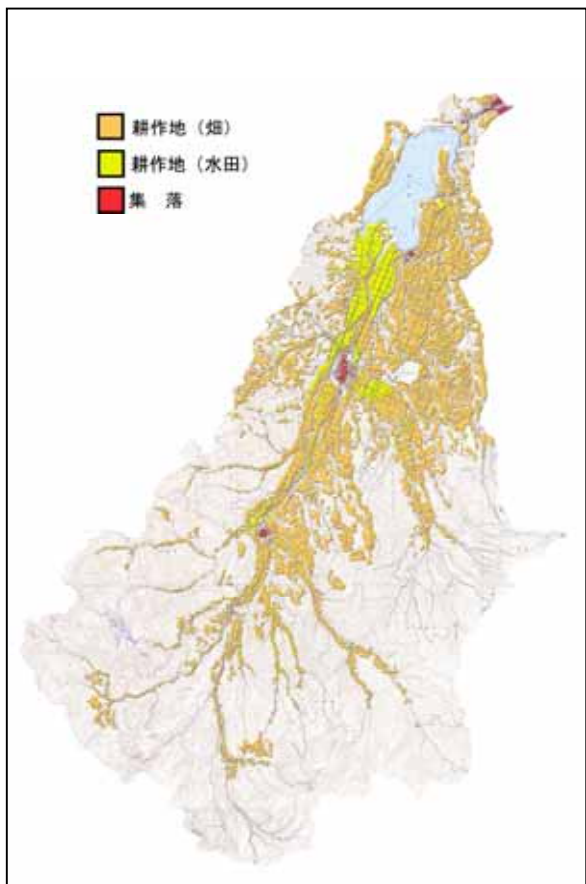
(出展：北海道市町村勢要覧(H17))



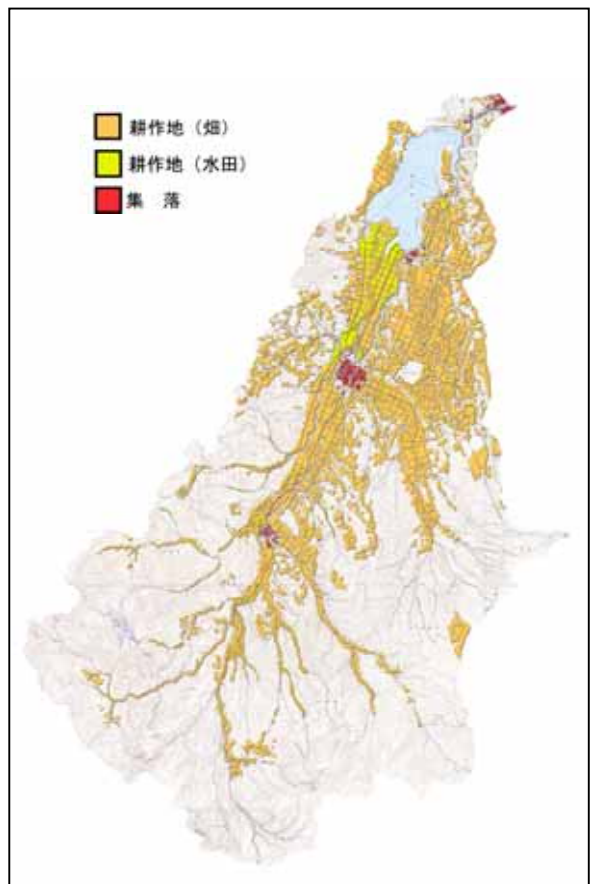
[天 正]



[昭和中期]



[昭和後期]



[平 成]

図 3-6 土地利用の経年変化

### 3-3 産業・経済

流域自治体内の産業別就業人口の推移を見ると、流域の産業は農林業を主体とし、河口の網走市では漁業も盛んであったが、近年の第一次産業の衰退により、第一次産業人口が昭和26年に比べ平成12年では14,427人から6,227人と約43%に減少しているが、第二次産業が約2.7倍、第三次産業が約3.3倍と高い伸びを示している。

第一次産業就業人口を市町村別で見ると、女満別町、津別町で比較的高く約24%から約38%となっているが、第二次産業就業人口は各市町村とも約17%から約30%程度となっており、第三次産業就業人口は網走市、美幌町で比較的高く、約60%から約66%程度となっている。その他の町でも約45%と高い比率を占めている。

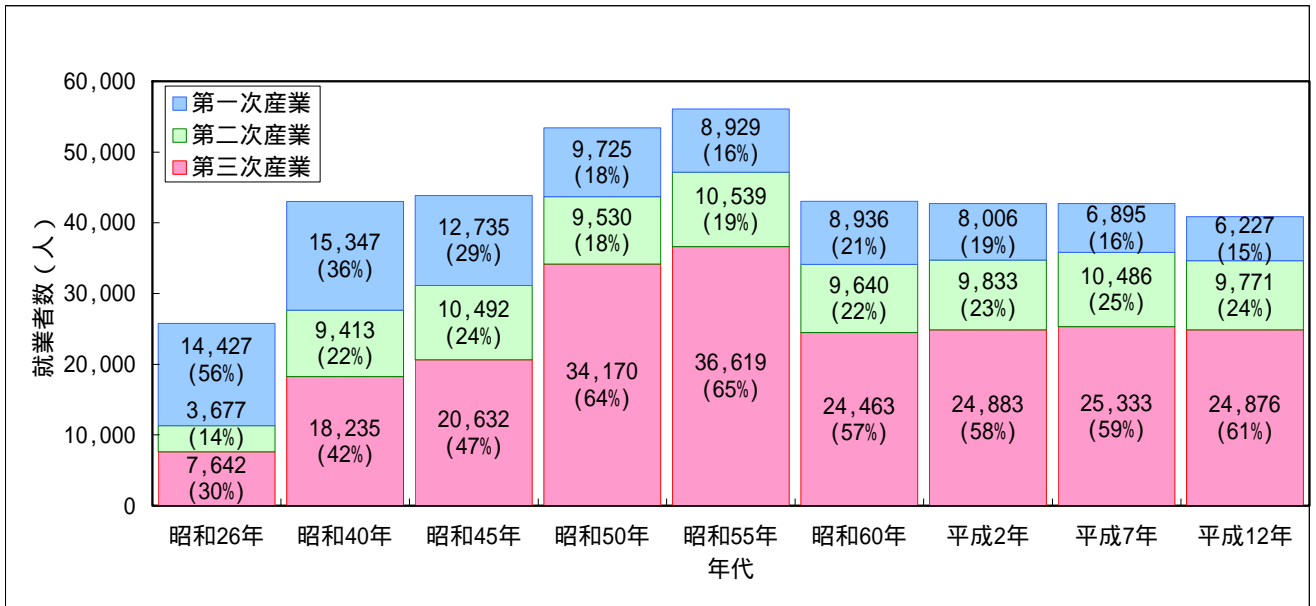


図 3-7 産業3部門別就業者数の推移

(出展：北海道市町村勢要覧)

表 3-2 産業別就業人口と構成比

(単位:人)

区分	第一次産業人口	第二次産業人口	第三次産業人口	総数
網走市	2,392 11.0%	4,937 22.7%	14,446 66.3%	21,775 100.0%
女満別町	1,243 37.6%	570 17.2%	1,497 45.2%	3,310 100.0%
美幌町	1,794 14.4%	3,257 26.1%	7,413 59.5%	12,464 100.0%
津別町	798 24.0%	1,007 30.3%	1,520 45.7%	3,325 100.0%
全道	217,908 8.1%	602,859 22.3%	1,881,089 69.6%	2,701,856 100.0%

注1：下段は構成比率(%)

(出展：北海道市町村勢要覧)

### 3-4 交通

産業への基盤となる幹線交通系統のうち陸上交通網は、網走市からオホーツク海沿を通り、斜里町を経て根室市に至る国道244号線、旭川市から北見市、美幌町、女満別町を経て、網走市に至る道央とオホーツク圏域を結ぶ国道39号、網走市からオホーツク海沿いを北上し、紋別市を経由して稚内市に至る国道238号線、羅臼町を起点とし美幌町に至る国道334号線、網走市から女満別町、美幌町を通り、美幌峠を経て根室市に至る国道243号線、網走市から女満別町、美幌町、津別町を経て釧路市に至る国道240号線があり、オホーツク海沿岸の各都市間と道内各地を結ぶ交通体系に貢献している。

公共交通網は、昭和60年3月に相生線（美幌～北見相生）、昭和62年3月に湧網線（網走～中湧別）が廃止されたため、現在は道央圏とオホーツク地方を結ぶJR石北本線（新旭川～網走）とオホーツク地方と釧路地方を結ぶJR釧網本線（網走～東釧路）の2路線があり、オホーツク地方の物資輸送や観光旅客輸送に大きな役割を果たしている。特に流氷接岸期には、イベント列車等の運行がなされている。

航空交通網は、昭和10年に気象観測用飛行場として設置され、昭和38年4月から第三種空港として供用開始された女満別空港が存在し、昭和60年4月には現在の位置に移転し2000m滑走路が共用され（平成12年2月に2500m化）ジェット機が就航され道内路線ならびに東京、名古屋、大阪間の定期運行がなされており、平成15年の輸送実績は乗降客109万人、貨物数7209tと道内空港の中でも上位にランクされている。

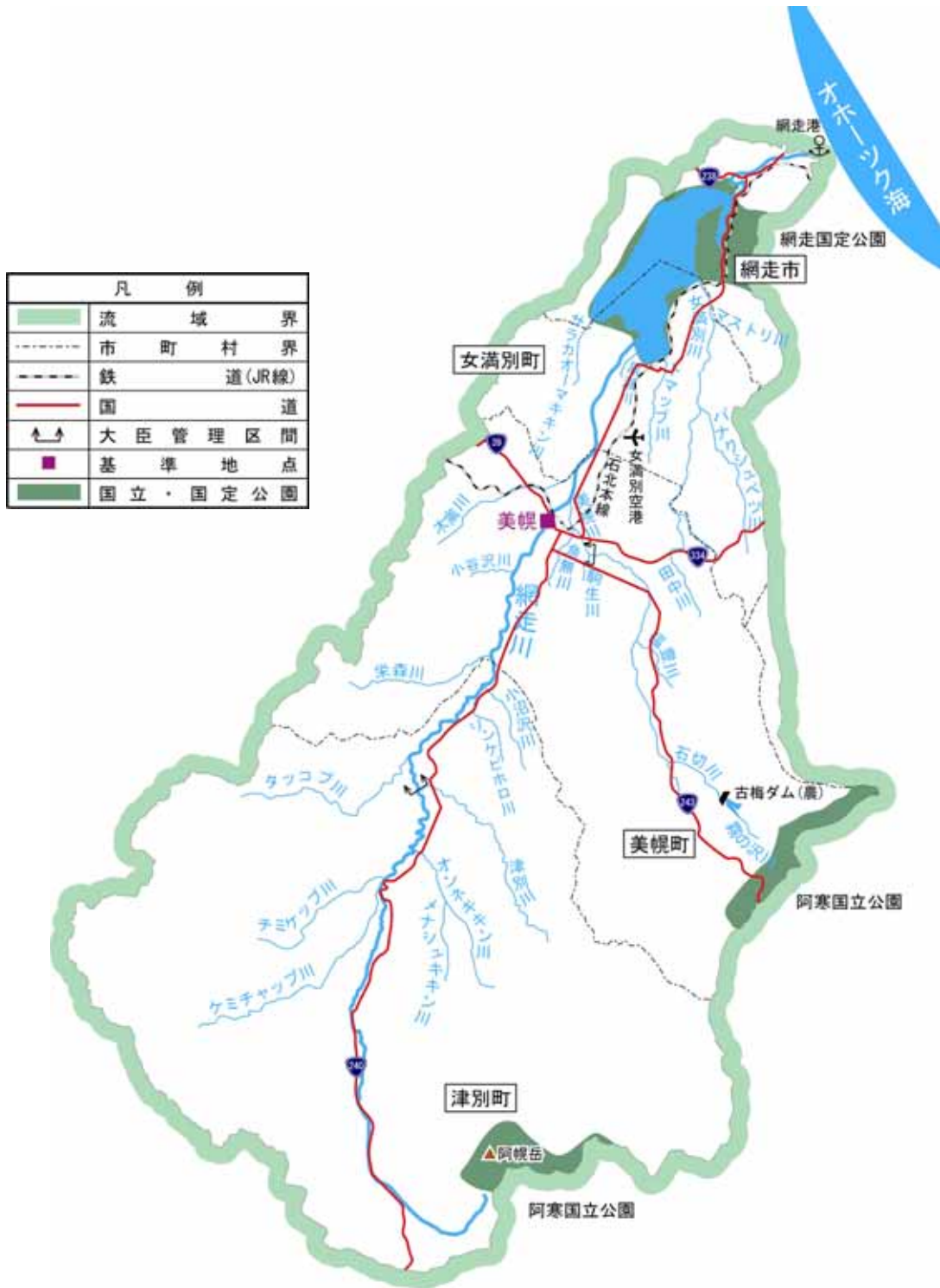


図 3-8 網走川流域における道路・鉄道網位置図

3-5 関係ある法令の指定状況

3-5-1 第6期北海道総合開発計画

北海道総合開発計画は、行政改革や国際化、地球環境問題への知見の集積等の大きな情勢の変化を受け、地球規模に視点を置いた食料基地、北の国際交流圏の形成、観光・保養基地の形成や北海道が有する美しく雄大な自然環境の保全、安全でゆとりのある生活環境の創造を目的としている。

これらの目的を重点的・効率的に推進してゆくための一方針として広域的・複合的な地域プロジェクトの推進を掲げており、複数の市町村が連携を図り、総合的に取り組むプロジェクトを支援してゆくものとしている。この地域プロジェクトの中には、河川事業に直接あるいは間接的に関連するものも少なくない。

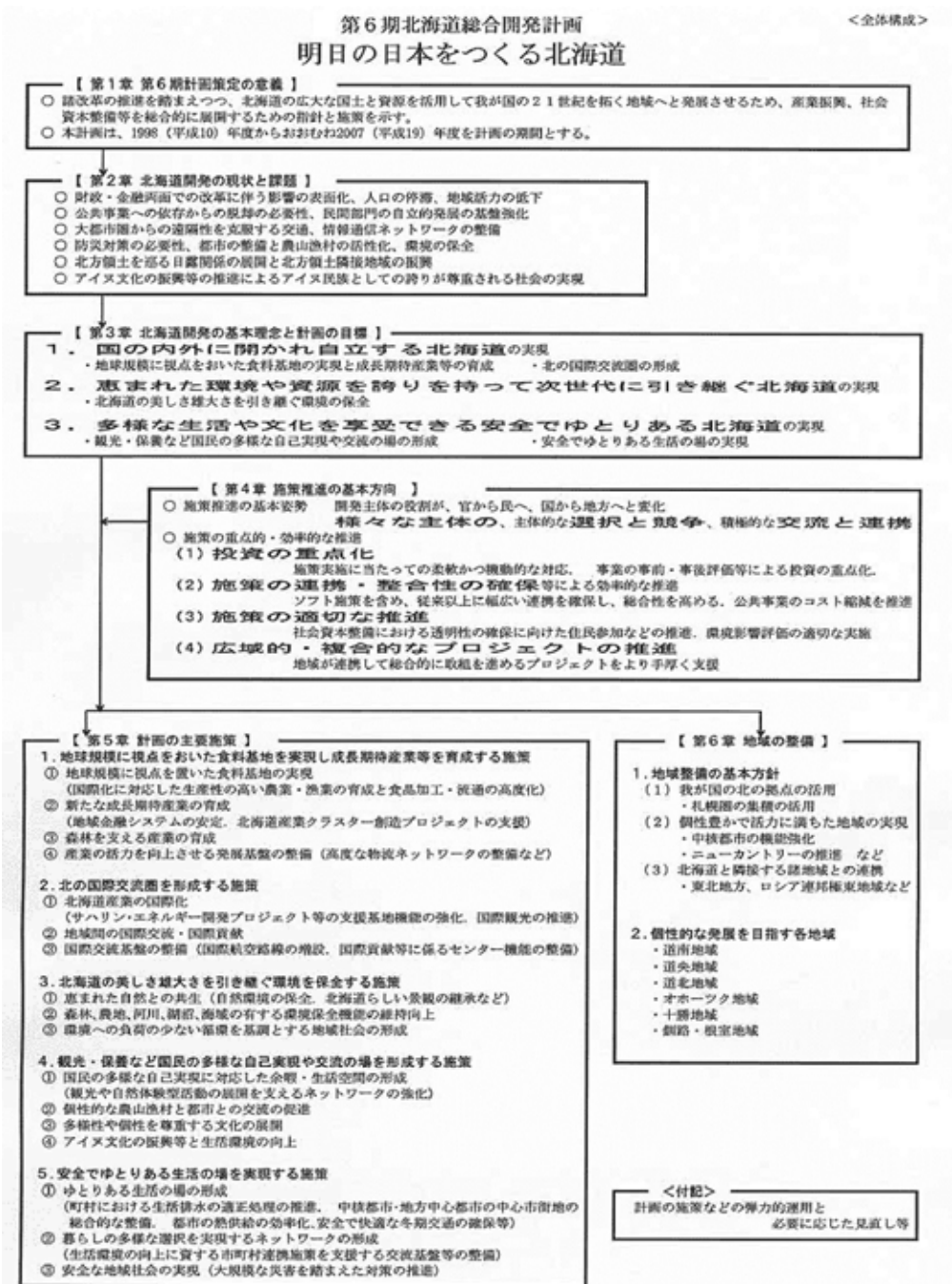


図 3-9 第6期北海道総合開発計画

(出展:北海道局HP)



### 3-5-2 都市計画

網走市街は、網走川沿川を中心に、オホーツク海、網走湖、山林、農地に囲まれた低地と丘陵地に形成されており、網走湖東部に位置する呼人地区を含めて、約3,483haが都市計画区域に指定されている。用途地域は、大曲地区から網走港に至る網走川沿川の国道39号に沿って、工業系、商業系の土地利用が配置され、網走川より南北に向かって住居系の土地利用が配置されている。また、市街南部地区にはオホーツク公園や網走運動公園等の公園・緑地が分布している。都市施設としては、都市計画道路が19路線、都市計画公園が31箇所、その他下水道施設等となっている。

女満別町市街は、網走湖南端の国道39号に沿って形成されており、市街地周辺区域を含めて、網走川豊郷橋付近から網走川及び網走湖沿いに女満別川に至る約3,914haが都市計画区域に指定されている。用途地域は、JR女満別駅周辺に商業系の土地利用が配置され、それを取り囲む形で住居系、工業系の土地利用が配置されている。網走川及び網走湖沿川は、JR女満別駅周辺を除いて白地地域となっており、農地保全地区となっている。都市施設としては、都市計画道路が8路線、都市計画公園が6箇所、その他下水道施設等となっている。

美幌町市街は、網走川と美幌川の合流部に形成されており、市街地周辺地域を含めて、約2,500haが都市計画区域に指定されている。用途地域は、国道240号、国道243号沿いに商業地域が配置されており、その周辺部に住居系の土地利用、さらに、国道240号沿いと住居系の外縁部に工業系の土地利用が配置されている。都市計画区域内の網走川河川敷は、大部分が網走川河畔公園として整備されており、都市公園に位置付けられている。都市施設としては、都市計画道路が14路線、都市計画公園が28箇所、その他下水道施設等となっている。

津別町市街は、網走川と津別川の合流点に形成されており、本岐、相生地区が国道240号に沿って形成されているが、津別町では都市計画区域は指定されていない。